

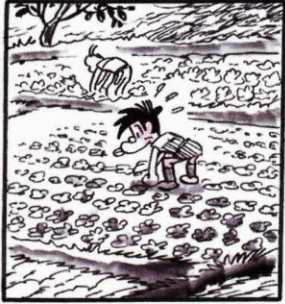
みすみ昔ばなし
第35話
一瀬の殿様
（前編）
中次 広建



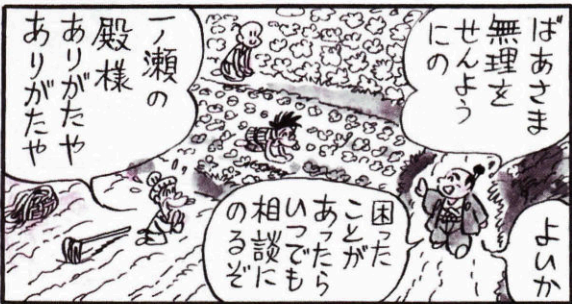
今から約百五十年前
毛利藩の家来で
樅ノ木・中畑以東を
支配していた武士が
一瀬に住んで
いました



倉兵衛
精が出るのよ



この男、大変人の好い
武士で、家来や農民を
可愛がったので
人々から
「一瀬の殿様」
と尊敬され親しまれて
いたそうです



一瀬の殿様
ありがとうございます

困ったことがあつたら
いつでも相談のぞ
いてください

ばあさま
無理を
せんよう
にの

よいか

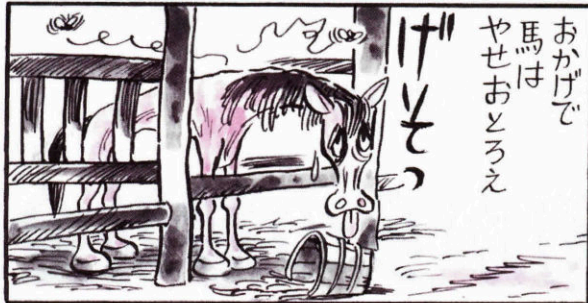


あー
よいよい
そのまま
よければ
よい

へー



これは
一瀬の
殿様



おかげで
馬は
やせおとろえ
げん



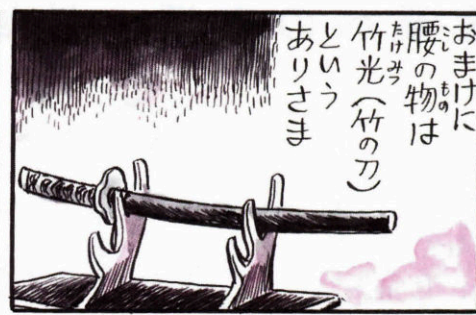
武芸には
全く
無関心
興味も
なく一切
顧みなかった



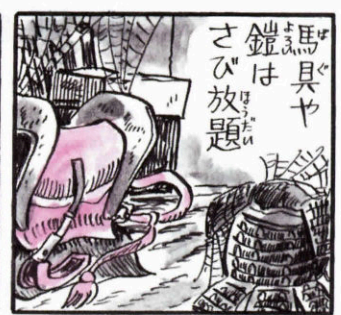
この殿様
至る武士
らしくない
武士で
文学に
極めて熱心で
造詣も
深かったが



なんとも
なさない
話ですが
この頃の
多くの武士が
似たり寄ったり



おまけに
腰の物は
竹光（竹の刀）
という
ありさま



馬具や
鎧は
さび放題



萩藩藩主
第十三代
毛利敬親公も
このありさまを
なげいて
ありました

なんとか
せぬば



生活に困った武士は
鎧や刀を
質に入れ
金にかえて
やりくりして
いたのです



徳川泰平の
平和な時代が
二百年以上も
続いたために
武士は
武芸を
おこたり